木こりのおじいさんと地蔵さん

むかしあるどごろに、おじいさんとおばあさんとくらしていて、おじいさんが山さ木切りに行って、焼めししょって行って、

「昼間になったもの、焼めし食おうか」

と言って焼めし出したば、ゴロゴロとまくしてしまって、おやおやまくしてしまったと思って、おじいさん焼めしさがしてきたば、地蔵さまのどごさ止まっていたって。

「おやおや地蔵さま、いがたな。ここまで来て止めでもらっていがったな」

って砂っこほろって、砂っこのつがねほう地蔵さまさあげで、砂のついだどご自分で食べで、そしたば地蔵さま、

「おじいさん、おじいさん、晩げ六時すぎ、博打打ちにくるから、その時ここさ泊まっていで、朝間の二時三時ころになったら、夜明けどきになったら、一番鳥の鳴くころになったら、鳥っこの鳴く真似せって、せば博打打ちどみんなおいて、一番鳥鳴いだどって、逃げでいぐがら、その時爺っこそのぜんこ貰ってせ、家さ行げ。晩げこいな」

ってそう言って地蔵さまおしぇだって。それから家さ来て婆どごさ、

「婆、婆、地蔵さまこういったってしぇたけはんて」

っておしぇだば、

「したら、爺っこ、まず行け」

って、そして行ったばそのとおり晩げ六時すぎになったば、いっぺねずみっこど集まって来て、博打っこ始めだば、じっこ黙っていだば、

「コケコッコー」

って爺っこ鳴いだば、

「あっ、一番鳥だ」

もう一回鳴いだば、

「あっ、二番鳥だ。こんだ行こ行こ」

って、みんなどそのぜんこそのまま置いで帰って行ったって。

そえでこだその爺っこ、ぜんこみんな貰って家さ来て仏様さあげでいたば、隣りのヒコヒコ婆来て、

「さあ、さあ、さあ、この家で昨日まで貧乏だっけ、どっからこたにぜんこ出したじゃ」

て言われで、

「昨日山さ行って焼めしまくしたば、地蔵さま止めでけでいで、いかったくて、いかたくて、地蔵さまさ飯あげだば、よま（夜に）こやって、こやって、ねずみ来て、博打っこやるはで、朝間方になったら、鳥っこの真似せば行くはでな。そしてぜんこえっぺ貰って来たなだ」

たば、

「おらも家さ行って、おれの爺っこどごもやろう」

ってその婆そう言って家さ行って、

「隣りの爺っこど、こうやって行って、ぜんこえっぺもらってきたはで、爺っこそして行げ」

って焼めししょわせでやって、なんてもまぐえもさね焼めし、わんざど自分でまぐしてやって、そして砂のついだどご地蔵さまさあげで、砂っこのつかねどご自分で食って、なっても地蔵さま来いっても言わねの、そござ居で、なんと二時ころさなったば、

「コケコッコー」
て鳴だば、なんと今からだば鳥っこ鳴く頃でね、おがしな、おがしなって、ねずみどみな気ついだば、いたずら爺っこだどて、みんなねずみにかっちゃがえで、血だらかっこになって、爺っこ赤べろになって来てあったとや。
悪いごとせばそういうもんだって話してあったのやな。